

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	874000227		
法人名	社会福祉法人竹育会		
事業所名	社会福祉法人竹育会グループホームぬくもり		
所在地	つくばみらい市古川1047番地 (電話) 0297-52-1280		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年11月27日

## 【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.7 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本医院 取手東歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念である「利用者の安全」と「地域に根ざした」ホーム作りの実現に向け、設置法人と一丸になって、それぞれの役割を活かした運営を行っている。  
職員の要請による救急法などの研修会の受講や外部研修に職員を派遣するなどにより、職員の育成に積極的に取り組んでいる。  
ホームを利用するにあたり、利用者や家族から希望や意向を聴取するとともに、聴取した情報を活かし、利用者のペースに合わせた生活が送れるよう、支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善点を職員と話し合い、理念を玄関に掲示したり、共用空間に花や馴染みの物品を設置、研修受講者による報告会の実施など、改善を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価をするにあたり、職員間に周知を図るまでには至っていないので、外部評価の意義や支援するにあたっての気づきを促すため、職員とともに自己評価に取り組むことが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生委員や地域の有識者、利用者及び家族、市役所職員、事業所の代表を構成員とする運営推進会議を開いているが、定期的開催するまでには至っていない。 設置法人が地域包括支援センターの委託を受け、センターと連携を図り、地域の福祉ニーズ等の把握を行っている。 また、養護学校との交流を図るため、連絡を取っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用にあたり、利用者や家族に対し、苦情等の窓口や担当者、目安箱の利用について、説明している。 また、家族の訪問時に、日頃の暮らしぶりや健康状態について報告するとともに意見や要望等が聞けるよう、働きかけている。 面会することができない家族には、金銭管理出納帳や広報誌等を郵送し、報告している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人の代表者等が地域の方々と積極的に交流を図るとともに、敬老会やボランティア、養護学校がホームを訪問するなどにより、交流を図っている。 また、夏祭りの開催や地域の催しに利用者や職員も参加するなど、地域の方々と交流を図っている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の要請により、法人設立に至っており、「利用者の安全」と「地域に根ざした」を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の共有を図るため、玄関等に掲示し、周知を図っているが、職員間で共有するまでには至っていない。	○	職員に運営理念の共有がさらに図れるよう、ケア会議等で話すなどの取り組みが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が地域の方々と積極的に交流を図るとともに、敬老会やボランティア、養護学校の生徒がホームを訪問するなど、交流を図っている。 また、夏祭りの開催や地域の催しに利用者や職員も参加し、地域の方々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善点を職員と話し合い、改善に取り組んでいる。 自己評価をするにあたり、職員間に周知を図るまでには至っていない。	○	外部評価の意義や支援するにあたっての気づきを促すため、職員とともに自己評価に取り組むことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域の有識者、利用者及び家族、市役所職員、運営者を構成員とする運営推進会議を開いているが、定期的開催するまでには至っていない。	○	ホームの現状等を理解してもらうため、また、ホームのサービスの向上を目指すうえでの積極的な意見交換の場を定期的に設ける取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での交流のほかに、事業に関する報告を行っている。 設置法人が地域包括支援センターの委託を受け、センターと連携を図り、地域の福祉ニーズ等の把握を行っている。 また、養護学校との交流を図るため、教員と連絡を取っている。		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に暮らしぶりや健康状態について報告している。 また、ホームを訪問することができない家族には、金銭管理出納帳や広報誌等を郵送し、報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約にあたり、利用者や家族に対し、苦情等の窓口や担当者、目安箱の利用について説明している。 また、家族の訪問時には、意見等が聞けるよう、働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員が馴染みの関係を持てるよう、人事異動等は十分配慮している。 職員の悩みの相談に乗ったり、健康器具等を設置して、職員が働きやすい環境を整備している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、救急法など、職員の希望に応じた研修会の受講やその他外部研修会を受講する機会を設けている。 研修を受講した職員は、ケア会議で報告会を行っている。 また、職員に必要な情報は、インターネットで検索し、必要な箇所を印刷して、情報提供している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が中心となって、地域の介護事業所による協議会を設置し、交流や情報交換を行っている。 また、茨城県老人福祉施設協議会に加入し、研修会などの勉強の場に参加し、交流等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用するにあたり、管理者や担当職員等が自宅を訪問したり、本人や家族等が訪問し、相談やホームの説明等を行っている。 利用者が安心してホーム生活が送れるよう、事前に家族とホームを見学している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の配膳や洗濯物たたみ、園芸などの利用者ができることを把握し、できることは積極的に取り組んでもらえるよう、声かけなどにより、働きかけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から、ホームで生活するうえでの希望や意向の情報を収集し、情報に添った環境整備を行っている。 また、利用者には日常のスケジュールや役割等について強要する事のない支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、フェイスシートで利用者のできること等を把握し、担当職員に意見を求め、情報を基に介護計画を作成している。	○	介護計画作成時に、記入漏れや家族の承認印漏れが散見しているため、記入漏れのないよう、確認や説明後にサイン等の承認を得る取り組みを提案する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況等の変化にあわせて介護計画の見直しを行っている。 介護計画の見直しにあたっては、アセスメントやケース検討会議を行い、職員の意見を聞いている。	○	介護計画の見直しにおいて、利用者の課題に対する継続性を確認することができなかったため、現状を踏まえた見直しばかりでなく、課題等の評価を踏まえた見直しに取り組むことが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	設置法人と連携し、地域における福祉ニーズの情報を把握するとともに、法人の有している機能を活かした柔軟な対応を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じた診察が受けられる体制を整えるとともに、毎週1回往診に来てもらえる医療機関を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	設置法人内で利用者の終末期に向けた対応を取り決め、連携を図る体制となっている。医師や家族と今後の対応方法について話し合いを行っているが、職員に周知を図るまでには至っていない。	○	職員にもホームの終末期における対応や方針について周知を図る取り組みを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームを利用するにあたり、家族等から個人情報の使用に係る同意書に同意を得るとともに、同意書に添った対応をしている。また、日々の生活の中でプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴を把握し、把握した情報を基に、利用者のペースで過ごすことができるよう、支援している。また、利用者に意見や希望を聞き、希望に沿った生活が送れるよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態に応じた調理法や味付けで食事を提供するとともに、職員と利用者が協力して片づけ等を行っている。 また、花見などに外出した際に外食する機会を設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、利用者がユニットの2つの浴室を選んで入浴している。 また、利用者の介護状態に応じた入浴支援を行えるよう、介護機器等を用意している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできる事を把握し、利用者に応じた役割が持てるよう、支援している。 皿拭きや編み物などを生活リハビリとして取り入れるとともに、ドライブへの参加を促すなど、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やあやめ祭りなど季節の行事を企画し、外出している。 また、土・日曜日に職員と利用者で買い物に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設置法人内で身体拘束に関する委員会を設けており、身体拘束の無い支援に取り組んでいる。 身体拘束の無い取り組みの一環として、玄関に施錠することなく、利用者が自由に出入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対応マニュアルを作成するとともに、目的を持った消防訓練を毎月実施している。 また、設置法人と連携を図り、災害時に必要な食料を備蓄している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算された献立と材料が届き、ホームで調理を行い、利用者に応じた量で提供している。 また、水分摂取量を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた調度品を譲り受け、共用空間に設置するとともに、テーブルには季節の花を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物品を持ち込み、利用者一人ひとりが使いやすく居心地よく過ごせるよう、環境づくりを行っている。		

※  は、重点項目。